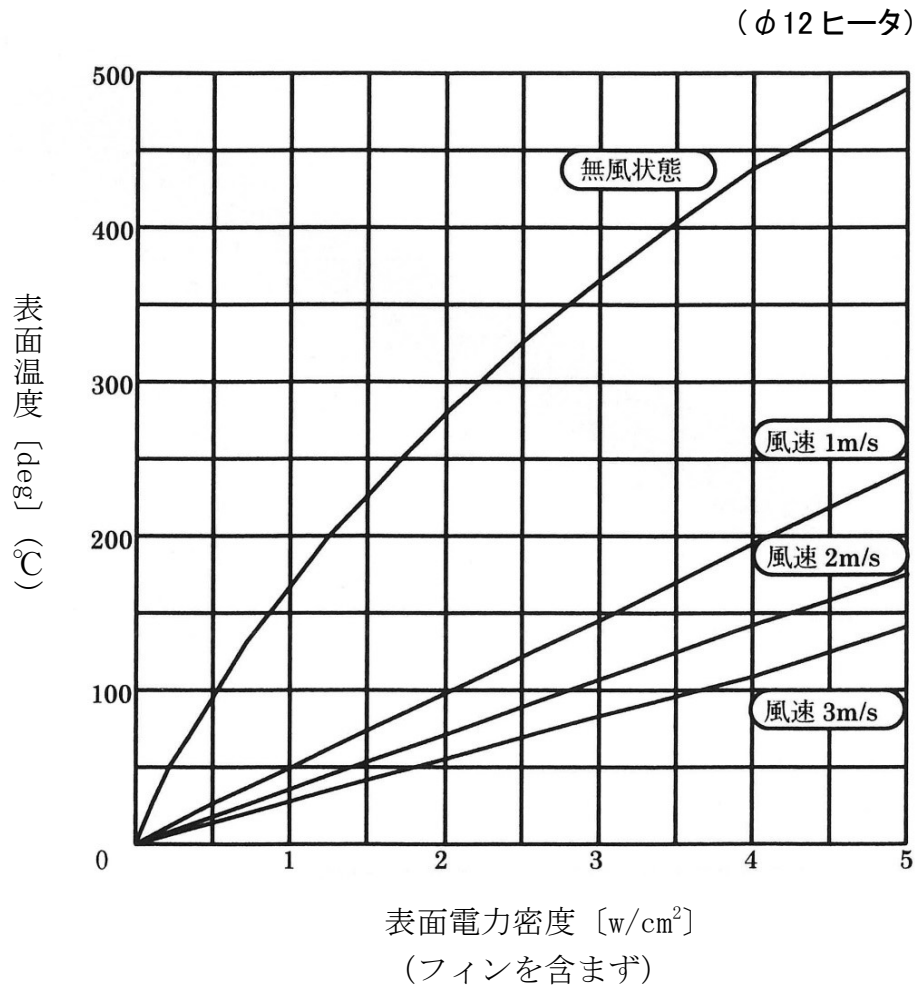


フィン付ヒータの特性

1. 表面温度



2. フィン付きヒータの特徴

- ①フィン付きヒータは放熱面積が広いので、放熱効率が高くなり、結果、表面温度が低くなります。
- ②空調用(暖房用)ヒータで、フィンなしヒータの場合表面電力密度は 2.5w/cm²程度とするとフィン付きヒータの場合は、5/cm²まで対応できます。よって、フィンなしヒータと比較するとヒータを短くすることも、またヒータの本数を少なくすることも可能です。(省エネ設計が出来る)
- ③フィン付きヒータは表面温度が低いため、安全で長寿命。
特に風の流れがある場合は、放熱効率が極めて有効で、表面温度は低くなります。
- ④フィン付きヒータは放熱効率が良いため、昇温時間が短い。
- ⑤上グラフから、フィン付ヒータの場合、無風時と有風時の表面温度の差が極めて大きいことから、異常時の安全器の作動がより確実に行えます。(誤作動が防げる)
- ⑥フィン付ヒータは放熱効率の良いヒータとして、空調用のユニットヒータや空調用ダクトヒータ、食品乾燥機や熱風発生器、空気加熱器等に用途多岐のヒータエレメントです。